



主任
株式会社エイトテクノ

犬飼 優也



代表取締役
株式会社エイトテクノ

犬飼 健司

「この仕事は一人のできる仕事ではありません」——そう語る犬飼社長。
現在のご子息の優也主任も従業員として加わり、事業の一翼を担っている。
従業員をはじめ協力会社の人々、そしてお客様の存在があってこそ、成立するのだからこそ、常に感謝の気持ちを持ち続けたいと社長は考えている。
また、生まれ育った地元へ恩返しを込め、今後はより地域に密着した事業展開を進めるといふ。
感謝の気持ちを人へ、地域へ——。社長は感謝と共に、未来へ歩を進める。

(対談記事は*~*頁に掲載)

「感謝の気持ちを忘れずに、
未来に向かって歩み続けていきたい」



主任
犬飼 優也

代表取締役
犬飼 健司

タレント
ダンカン

special × interview

施工からメンテナンスまでトータルサポート 蓄積したノウハウと技術で顧客の期待に応える



上下水道にかかわる公共工事をメインに、各種プラント工事、機器据付工事、配管工事、プラントメンテナンス工事などを手掛ける『エイトテクノ』。業界経験豊富な犬飼健司社長と、同業界で修業をしたというご子息、犬飼優也主任の親子が、2019年9月に立ち上げた企業だ。本日はタレントのダンカン氏が訪問。会社設立までの経緯や事業にかける思いなど、お二人から様々なお話を伺った。

—まずはじめに、犬飼社長の歩みからお聞かせ下さい。

(健) ここ春日井市の出身です。学生時代はサッカー部に所属し、サッカーに打ち込んでいました。小さいころから将来は社長になりたいと思っていましたが、当時はまだ漠然としたものでしたね。小学校の文集を見てみると「大工になりたい」と書いていた時期もあり、ものづくりにも興味がありました。高校を卒業してから建築専門学校で学び、最初は不動産会社に就職したんです。

—そちらでは何年ぐらいお勤めをされたのでしょうか。

(健) 2年ぐらいです。その不動産会社のお客様から、手に職を付けたいなら良い会社があると紹介されたのが、今携わっているプラント設備工事の業界だっ



株式会社 エイトテクノ

愛知県春日井市東神明町1丁目9番地10
URL : <https://www.eighttechno.co.jp>

たんですよ。それから道一筋に技術を磨き、経験を重ねてきました。業界経験は23年になります。その中で、いくつかの会社を転々としたのですが、28歳の時に「もっと自分の試してみたい」と考えるようになりまして。そこから転職した会社で10年ほど修業をしました。その後、ヘッドハンティングされて入社したのが前勤務先。新しい部署の立ち上げを任されたんです。そちらでは多くの部下を抱えて仕事をしていました。

—責任あるお立場にありながら、独立という道を選ばれたのは何故ですか。

(健) 独立してもやっていけるという自信ができたことが大きかったですね。もちろん迷いもありましたが、妻が「一度きりの人生だから、やってみたら」と背中を押してくれたんです。一方で、独立にあたって不安はありませんでした。昨年9月にこの会社を立ち上げたので、まだ1年。特に大きな苦労もありませんし、失敗することを考えず、前だけを見て突き進んできました。

—立ち上げ当初から堅調な歩みを進めておられることが窺えます

(健) はい。下水道にかかわる工事についても23年の経験があり、その中で培ってきた人脈もあるので、ありがたいことに順調にお仕事をいただいています。また、たとえばトンネル内で天井を支えるパネルの崩落事故などが発生することがありますよね。前勤務先に勤めていた時にはその復旧工事などにも携わってきた経験があり、そのノウハウを買われて仕事の依頼をいただけることもあります。現在は、浄水場や下水処理場など、水処理関係の施設の工事をメインに、プラン

ト工事や据付工事、配管工事、プラントメンテナンス工事などを幅広く手掛けています。

—社長が長年の経験で培ってこられた豊富なノウハウや技術が御社の強みになっているようですね。

(健) そうですね。また当社には現場管理ができる人材が揃っており、実際の工事からメンテナンス工事までワンストップで提供できることも強み。それから当社では「機械器具設置工事業」で建設業許可を取得してしまっています。実はこの業種は、難関な試験をパスして国家資格を取得するか、もしくは機械器具設置工事業の許可を持っている会社で10年以上勤務し実務経験を積んでから許可を取る必要があります。全部で29種類ある建設業の許可の中で一番許可の取得が難しいと言われてはいるんです。この許可があるからこそ引き合いが多く、それが安定した業績にもつながっていると思います。

—なるほど。ところで、ご子息である優也主任はどのような経緯で社長とお仕事をされるようになって？

(優) 幼いころから「かたちに残るものをつくってみたい」という思いが強く、父と同じものづくりの道に進みました。水道の本管から各住居へとつなげる工事に携わった後、父が勤めていた会社でご縁をいただき、私も同じ会社で仕事をすることになったのですが、部署は全く違ってました。ですから一緒に仕事をすることは多くはなかったんです。それでもたまに現場の応援に行かせてもらおうと、父が先頭に立って指示を出している姿を見ることがありました。その存在は現場でも際立っていましたし、格好良

いなおもっていましたね。

—自分の親となると、なかなか素直に格好良いとは言えないものですから、社長も嬉しいでしょう。親子でぶつかることはないのですか？

(優) 喧嘩になることはありませんね。社長の言葉は納得できるものばかりですし、勉強になることばかりですから。

—これからの成長がますます楽しみです。最後に、これから先の展望についてお一人ずつお聞かせ下さい。

(優) これからも1日1日を大切に精進していきたいと思っています。そして父が築いてきた基盤をしっかり受け継ぐことができると思います。

(健) 5年後、10年後にはこの建設業界はさらに深刻な人手不足になっていると予想されます。その中でも常に「安全」「安心」を追求し、進化を続けていきたいですね。また、現在は小さな規模ですが、5年後には従業員を10人ほどに増やし、年商6〜7億にすることが目標です。そして息子にはしっかり修業してもらい、10〜15年後にはバトンを渡すことができると考えています。その日が来るまで私も第一線で走り続けます！

(2020年9月取材)



Pick up the story

人、そして地域への「感謝」

▼「仕事をする上で、一番大切にしているものは？」という問いに「感謝の気持ち」とよどみなく答えた犬飼社長。「この仕事は一人でできるものではありませんし、従業員や協力会社の皆さん、お客様など、常に周りの方々への感謝を忘れずに仕事にあたっています」とのこと。その思いが相手にも伝わっているからこそ、お客様も信頼して『エイトテクノ』に仕事を任せてくれるのだろう。

▼長年にわたって会社勤めを続けてきた社長。経営者になってから、また見える景色が変わったのだという。前勤務先では部長として20〜30人をまとめ上げ、売上を伸ばしてきた。「何かあった時も会社がバックアップしてくれるので、安心して仕事ができました。けれども今は、自分の後ろには何も無い。孤独を感じることもありますし、プレッシャーも大きい」と本音をのぞかせる。けれども、社長は前だけを見据えている。「今後は地元の工事を中心に手掛けていきたい。それが生まれ育った地域への恩返しになれば」。感謝を胸に、確かな歩みを進める。



「公共工事が中心ということもあり、新型コロナウイルスの影響もほとんど受けておらず、順調に業績を伸ばしているという『エイトテクノ』さん。一方で犬飼社長は「今後はどうなるか分からない」と危機感を抱いておられます。それでも前に進むだけだ、という社長の力強いお言葉が頼もしかったですね。これからも親子で力を合わせてぜひ頑張ってくださいたいです」
ダンカン・談